

ものづくりの大切さ、面白さを伝える教員民間企業研修

(財)経済広報センターでは「経済界と教育界とのコミュニケーションの促進」に積極的に取り組んでおり、その一環として「教員の民間企業研修」を行っている。これは、学校の先生に民間企業でさまざまな研修を受けていただき、企業活動の考え方や企業の環境問題への取り組みなどについて理解を深め、さらに、企業での体験を明日の日本を担う子どもたちに伝えるとともに、学校運営などにも活かしていただくという取り組みだ(右頁グラフ参照)。

新日鉄では毎年、この「教員の民間企業研修」を通じて、教員の皆さんにもものづくりの大切さや面白さを訴え、

鉄鋼業の製造現場や当社の培った高度な技術力に触れるとともに、人材育成や環境保全への取り組みなどについて理解を深めていただく、プログラムを組んでいる。

2007年は室蘭、名古屋、君津製鉄所で総勢16名の教員の皆さんを迎えて7~8月に実施した。研修では、工場見学や研究開発概要、製造実力向上の取り組みなどを中心にカリキュラムを組んだ。参加した教員の皆さんからは、「日本の鉄鋼メーカーが世界トップレベルの技術力を持ち、現在もさらにその技術を磨く努力をしていることに感銘した」「人材育成の取り組みが参考になった」などの声が寄せられた。

研修の感想

室蘭



技術継承システムの必要性を認識

苫小牧市立沼ノ端中学校 田中 勝治先生

同じ製鉄所でも室蘭製鉄所にしかできない製品があることや、新日鉄の技術開発力が世界的にも高い水準にあることを、今回の研修で初めて知りました。また、今では大半がコンピュータ制御になっていても、そのプログラムを開発するには熟練した人間の勘が元になっている点や、製品の最終チェックには人間の目が必要であり、その技術の継承が確実に行えるように会社全体で取り組んでいる点が大変ためになりました。

教員の技術(教科や生徒指導、行事など)はほとんどが個人管理で、あまり技術継承されることはありませんが、これからは教育業界にも技術を共有するシステムの必要性を感じました。

名古屋



新日鉄の将来性と魅力を実感

名古屋市立南陽東中学校 鷲野 富哉先生

新日鉄が国内1位、世界第2位の生産量を誇ること、ハイテンなどの新しい鉄の開発を行っていること、2万以上の種類の製品を製造していることなどを教えていただきました。生まれて初めて鉄の製造ラインを見学し、赤くなった鉄の迫力に足が震えました。子どもに限らず、日ごろ何気なく大量の鉄を使っている大人も、一度は見学する価値があると感じました。

また、日本全体の問題ともいえる団塊世代の大量退職問題に対し、新日鉄では社員教育を重要な問題ととらえ、綿密にプログラムを組んで真剣に取り組んでおり、新日鉄の将来の可能性を感じました。

君津/富津



鉄の美しさと芸術的な動きを実感

日本女子体育大学付属二階堂高等学校 野澤 澄枝先生

企業研修を終えて、製鉄会社は煙・臭いのあるイメージから、地域環境に貢献しながら積極的に新しいことに挑戦する会社と認識が変わりました。熱延工場の視察では「鉄の美しさ」と「芸術的な動き」を実感し、講義では従業員一人ひとりの責任感・信頼関係が強く、これが安心して仕事ができる居場所をつくることに気づきました。

人材育成のプログラムも充実しており、学校改革に活かせる面が多く導入されていました。生徒たちにも常に新しいことに挑戦している様子を伝え、探究心の大切さを教えていきたいと思います。